



山崎中学校だより

No.1(4月号) 号外

令和8年4月14日

町田市立山崎中学校

校長 小平 千佐子

〒195-0074

町田市山崎町1445

042-793-1021

学校HPはこちら→



「4月号」の号外です。

紙面に収まり切れなかった内容について、ホームページ上で公開します！



「脇役のないストーリー」を、ここから。

副校長 治田 修幸

校庭の桜が芽吹き、柔らかな春の光が新しい年度の始まりを告げています。新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。そして、進級した2・3年生のみなさん、いよいよ新しいステージの幕開けですね。

みなさんは今、どんな気持ちで教室に座っていますか。「今年こそは」という期待、あるいは「うまくやっていけるだろうか」という少しの不安。そのすべてが、新しい日々を創り出す大切なエネルギーです。

さて、今日この新しいスタートにあたって、ある一曲の歌詞をみなさんに紹介したいと思います。GOING UNDER GROUNDというバンドの『トワイライト』という曲の中に、こんなフレーズがあります。

「主役は君と僕の 脇役のないストーリー」※



学校という場所は、時に大きな集団として捉えられがちです。「〇年〇組」という一括りの集団であったり、「生徒数〇〇名」という数字であったり。しかし、本来の学校の姿はそうではありません。

ここには、数百通りの人生があり、数百通りの感情があります。誰かの引き立て役として存在している人は、この学校には一人もいません。授業で真剣にノートを取る姿、部活動で汗を流す背中、休み時間に友達と笑い合う瞬間——その一つひとつが、他の誰にも取って代わることのできない、あなたという「主役」の大切な名シーンなのです。

「自分が主役」と聞くと、もしかしたら「目立たなければならない」とか「一番にならなければならない」と感じる人がいるかもしれません。でも、この歌詞が教えてくれるのは、もっと優しく強いメッセージだと私は思います。

自分が自分の人生の主役であると同時に、隣に座っている友人もまた、その人の人生の主役である。お互いが「主役」として存在を認め合ったとき、そこには「脇役」という概念が消えた、最高のチームが生まれます。

誰かの痛みに気づき、手を差し伸べること。

行事に向けて、見えないところで準備に励むこと。

自分の苦手なことに、一歩だけ踏み出してみること。

そんな一人ひとりの主体的な物語（ストーリー）が重なり合うことで、この中学校という場所は、どこよりも輝かしい「脇役のないストーリー」へと進化していくのです。

今日から始まる1年間、みなさんはどんな物語を綴っていくのでしょうか。

時には、思うようにいかない「雨の日」のシーンもあるかもしれません。立ち止まってしまう「迷い」のシーンもあるでしょう。けれど、それらすべてが、あなたのストーリーを深める大切な伏線になります。

私たち教職員は、みなさんの物語の良き伴走者でありたいと願っています。

さあ、まっさらな新しいページをめくりましょう。

「主役は君と僕」。

一人ひとりが輝き、全員で響き合う、最高の1年を共に創っていきましょう。

（※出典：GOING UNDER GROUND『トワイライト』 作詞・作曲：松本素生）



～4月当初の風景～

始業式 クラス分け発表の瞬間

始業式の昇降口で、クラス分け発表のプリントが配布されました。プリントを見つめる生徒たちの横顔には、新たな環境への期待と少しの緊張が入り混じっていました。この場所から、新しい仲間や先生との出会い、そして成長の物語が始まります。一丸となって充実した学校生活を創っていきましょう。



入学式前日 心をこめて準備中

新しい門出を祝う入学式に向け、体育館では着々と準備が進められています。上級生や教職員が一つひとつ丁寧に椅子を並べ、紅白幕を整える姿には「新入生を温かく迎えたい」という想いが溢れていました。整然と並んだ座席は、これから始まる出会いの数々を待っているかのようです。

身体計測 どのくらい成長したかな？

学期初めの恒例行事、身体計測が行われました。体育館では、身長が伸びたことに喜びの声を上げる生徒の姿が。中高生の時期は、体だけでなく心も大きく変化する大切な季節です。正しい生活習慣を心がけ、この一年でさらに心身ともに逞しく成長していく姿を応援しています。

